

会 議 録	
会議名	令和8年度 第2回社会教育委員の会議
開催日時	令和8年8月17日(月)午後3時 ～ 午後5時
出席者名	[那覇市社会教育委員] (議長)安里幸治、(副議長)土屋恭子、赤嶺勝信、谷本裕、添石幸伸、仲吉恭子、佐和田紀子、松田孝 [那覇市教育委員会説明者等] (生涯学習課)課長 稲森恵子、主査 羽地聡子、主査 仲村美紀 (総務課)課長 平良美夏、副参事 仲間稔、主査 赤嶺尚子、主事 大濱賢葵、主事 山城一希
会議の内容	議題 D5I 蒸気機関車の維持管理について(現地視察含む)
配付資料	(当日配付) 会次第、D5I 蒸気機関車の維持管理 関係資料
審議状況(経過、結論)以下のとおり	

○社会教育委員 ●事務局

議題:D5I 蒸気機関車の維持管理について

●視察しての感想を委員の皆様から頂きたい。

○想像以上に老朽化や破損が進行していることを痛感した。実際に北九州に行かれた人たちの想いや、過去にボランティアで塗装などに携わった人たちの話も聞いており、なんとかして残す方法はないかと考えていたが、実際に現物を見てみて、修復することが相当大変なことだと感じた。莫大な手間・コストを考慮すると、全てを修復して保存することは非常に困難であると感じる。可能であるならば、全面きれいに修復し、屋根をつけて保存することが一番の希望であ

るが、様々な制約があることを踏まえ、現実的な落としどころについても議論したい。

○屋根がない状態のまま放置されていることが、劣化を著しく早めている原因であると改めて感じた。なぜ、あの場所に風雨を防ぐような屋根を設置しないままなのか。また、多くの木が周りに立っていて、中が見えないような状態になっているのかが疑問。個人的意見として、現在の劣化した状態から保存を続けるのは難しいのではないかと感じている。

○近くで見ると思ったより劣化していた。可能であれば修繕して残してほしいが、予算の関係上残すことは難しいのではないかと考えた。また、木で隠れて外から見えにくい。学校や教育現場で D5I をどう活用していくのか気になった。みんなで審議していき決めていけたらいいと思う。

○皆さんと同じように老朽化を感じた。第1回の会議の後、関連書物があることを聞いていたので確認し、1972年当時の人たちの思いや蒸気機関車をどこに置くかなどの検討があったという歴史を確認した。こういった歴史に触れ、鉄の塊としての蒸気機関車というよりは、当時の沖縄県民や内地の人の気持ちの結晶ではないかと思った。皆さんがおっしゃったように、物体としての機関車は老朽化しているが、当時の人たちの気持ちを私たちがどのように継承していくか、という状況を象徴的に表しているように感じる。極端な話、撤去してしまったら、沖縄の人たちが、当時の人たちの気持ちを否定したように取られかねないのでは。先ほども述べたとおり、気持ちの結晶であると見たとき、文化的遺産であるとも評価できる。（首里城などを例に挙げ、）文化的遺産が修復された理由は、そのまちの象徴であり、そのまちにとって大切なものであったという想いがあったからこそ。個人的には、本件について社会教育委員の会議で決めるのは拙速ではないかと思う。市民に対し、こういった検討が進んでいることや D5I の現状を伝え、話し合ってもらうべきだと感じる。その結果、残すのが難しいという結論になったら仕方ないが、先ほども述べたとおり、沖縄の人たちが当時の人たちの気持ちを否定したように取られる結果にはしたくないと考える。

○D5I の存在は知っていたが、歴史は知らなかった。歴史を知った上で現物を見ると、関わってきた多くの人々（塗装ボランティア等）の並々ならぬ想いと、深い歴史が刻まれていることを強く実感した。一方で、今日通りかかった公園の清掃をされているという方からも、雨風をしの

ぐ屋根を設置してでも長く残してほしいという声も寄せられている。しかし、今後 D5I を残していくことを考えたとき、日本が人口減少に向かう中で、私たちが D5I の存続に多額の公金を投じる決定をすることは、今後の地域を担う若い世代に対して、将来的に大きな負担を押し付けてしまうことになるかもしれないので、その面も考える必要がある。一部保存を採用した場合、特徴的な「顔」部分や車輪などの一部パーツを、屋根を付けて保存したり、博物館のように映像などで D5I の歴史を見れるようにしたら、その経緯やいろいろな人たちが関わったことなどについて子どもたちの学習にもなると思う。プロジェクションマッピングなどを活用してもいいのでは、とも思った。技術的なことはわからないが、このまま残すには多くのお金や年数がかかるのだろうと思う。

○歴史も聞いて残したい気持ちはあるが、現実的に見て、そのまま残すのはかなり厳しい状況で、金銭面的にも厳しいだろうと考える。個人的にはどういう形で残していくかという考えにシフトしていくべきかと考える。こんな大きいことを私たちだけで話し合っているのかとは思いつつ、今日現物を見て、よくここまで残してくれたなと思う。お金の問題、場所の問題が出てきて厳しいだろうと思うが、良い形で当時の人たちの想いを残していけたらと思う。

○皆さん、貴重な感想ありがとうございます。皆さんの意見で一致するのは、どうにかして残していきたいが、現実として老朽化の問題がある。その中でどのように決めていくかという話である。その話に入る前に、歴史的な価値がある D5I について、与儀公園に設置されている意義や当時の人たちの思いを継承していく作業というのが薄くなっているのかなと思う。今の世代でいう 40~50 代までの人はまだしも、それ以降若い世代の人については知らない人もいると思う。せっかくなので社会教育委員の会議の場だけで決めるのではなく、こういった思いで D5I が設置されたということを広く周知し、新しい世代に引き継ぐ。引き継ぐためには、次の世代の人たちに見てもらいながら判断させることが必要だと思う。社会教育委員の会議だけで決めるのはもったいない。なくすのは簡単だと思うが、そうではなく、こういった風に残すことができるかというのを考えていく必要がある。先ほども委員から挙げたとおり、メディアも活用して、当時のドキュメンタリーのような形式で、設置された当時から現在に至るまでの経緯、今後どうしていくかというのを広く周知し、考えるきっかけになればいいなと思う。費用面の問題もある

が、そういった広報により D5I を残せる方法も見つけることができるのでは、と個人的には思う。事務局として考えられる方法があるか。

●事務局としても、歴史的価値を考えたとき、全部を撤去するというのは心が痛い。懸念しているのは安全面である。それが確保できれば、現状では残し方について可能性を否定するものではないと考える。安全性を考慮しつつ残していけるような提案を頂ければと考えている。

○私も安全面ということがとても気になった。金網があるけど、子どもが万が一乗り越えてケガすることがこわい。今は金網を乗り越える子どもがいなくて、現在も危険な状態だと思う。金網を乗り越えていたずらする子どもがいてもおかしくないのでは。

○ちなみに、この会議は公開としているが、どれくらい的那覇市民が今日の会議について確認するのか。D5I について幅広く情報が周知されるような案について、事務局で考えがあるか。

●答申の中で、安全面を担保しつつできるだけ残してほしい、モニュメント化にして残してほしい、などの方向性を書いてもらえれば、パブリックコメントをかけるなどの手法を取らと思う。細かい残し方については、答申で決めるものではなく、例えば、歴史的な価値を必ず継承するような方向性としてほしい、等を答申に記載いただければ、次のステップとして、教育委員会から市民に対し、「D5I の歴史的価値の継承を踏まえてこのように残したいが、市民の皆さんはどのように考えますか」のように問いかけ、市民からの意見を得ることになるかと考える。方向性が決まってから、費用の話や具体的な手法の話が出てくると認識している。

○今回の会議の内容は、D5I に限らず、歴史的な構造物や建築物だったり、当時の人たちの思いや情熱により設置に繋がったと思うが、それを考えるいい機会だと思う。答申に具体的に書けば、それに沿ってパブリックコメントなり対応してくれるとのことだが、是非、多くの若い世代に「なぜ D5I があるのか」などを伝えていくべきだと思うし、伝えていくことで継承されていく。そのためのいいきっかけになるのではと個人的に思う。丁寧に幅広く伝えて、いろんな人の意見をくみ取ることで、どれが理想かを考えるいい機会だと思う。ちなみに委員から提案のあったメディアの活用は可能なのか。

●メディアの活用については想定していなかった。取材していただけるのであれば、もちろん協力させていただく。メディアの活用については、考えが及ばなかったため、この場ですぐにお答

えはできない。

○決して那覇市にとってマイナスではなく、プラスの効果が生まれると思う。メディアなどの利活用については、今後の D5I の存続を判断する上でのいい機会だと考える。

○メディアの件だが、社会部の記者に現状を説明すれば、すぐに取り上げてもらえると思う。カラーで資料ももらっているし、現状で出せる資料は十分あると思う。誰かが寄稿するという手法も考えられる。九州から機関車が運ばれてきたことのみならず、そもそもこういった動きが起こった経緯について積み上げていき、そのプロセスのひとつとして D5I のことを取り上げれば、当時の状況を知ってもらうきっかけになると思う。

○直に D5I を見て、老朽化を感じた。しかし、D5I の前に置かれている案内板をみて、物體的な面だけではなく、歴史的なストーリーがあり、それを残す必要があると考える。壊すのは簡単だと思うが、限りなく残していく方に考えていくのがこの会議の意義なのかと感じる。もちろん行政としては、費用面や市民などの納得を得られるかなどの壁はあると思うが、マスコミや議員の先生など、いろんな方々との対話を重ねながら議論を尽くしていきたいと考える。

○改めて、歴史をさかのぼり、(当時の人たちの思いを)継承していくという作業は必要だと感じる。社会教育委員の会議だけではなく、那覇市民から意見を集める機会を設け、その中で、那覇市民が歴史的な経緯を思っ、D5I を残したいとなれば、残せる方向に安全性を担保しつつ予算確保に努めてもらう話に進めていけるのかなと感じる。

○自治会長の支部長会にて、こういった案件を議案にして持ち込むのもよいと感じる。

○与儀公園の再開発に当たり、地域の人たちの声を聴く機会があったのだったか。

●与儀公園の再編整備については、3 回のワークショップが開催され、年代も様々で参加者は小学生から 70~80 代までいた。ワークショップの中では、与儀公園をどう整備していくかが主に話し合われたが、D5I をモニュメント化してもいいのでは、という意見が意外と多数いたため、本件諮問のきっかけとなった。残していくという方向性をそれまでもっていたが、市民の方の中にもそんな意見があるのかと思った。

○ワークショップの中では、D5I は大きな議題となったのか。

●D5I だけでなく公園全体のバランスを見ながらの話だったため、D5I だけに集中して話を

したということではない。ただし、D5I の歴史については共有し、本日と同じように実際に D5I を見てもらった。

○たしかに、近隣住民の意見を聞いたり、ワークショップを開くのは大事である。私自身も、幼いときから与儀公園で遊び、D5I を見て育った。ただし、D5I に係るいろいろな歴史を考えたとき、私は那覇市民であるが、那覇市以外にも（D5I に関心のある人が）いると思う。また、那覇市の事業として進めていくのかもしれないが、残す可能性があるとの議論を広げるのであれば、那覇市民だけではなく、沖縄県全体の問題として捉えるべきだと考える。那覇市だけの宝物ではないと思う。D5I は沖縄県民にとって大切なものだと考える。

質問だが、那覇市民に限らずに沖縄県民（那覇市民以外）にもアンケートをとる、情報提供をする、沖縄県で大切なものを残すために沖縄県から補助してもらったり、県や那覇市以外に対して議論に発展したりする可能性はあるだろうか。

●残し方について、事務局としても、歴史的価値、経緯、背景、当時の人たちの善意、希望や喜びなどを無くしてしまうことはありえない、やってはいけないと考えている。残し方をどう工夫していくのが大事と考える。全撤去は考えていない。事務局としては、安全性を担保した上での D5I の残し方について方向性に係る意見を頂きたい。方向性が決まれば、例えば、歴史的な価値の伝え方や、学校教育の中での取り上げ方が変わっていくのではないかと考えている。現状で、市民らに対し「D5I をどうするか」と聞いても、意見がまとまらないと思われる。仮定の話だが、「D5I はほぼほぼ現状の形で残してもらいたい。歴史的価値も、子どもたちに継承していけるような活動をしてもらいたい。」という意見を答申でいただけたら、それを受け止めて、行政として市民らに対し「教育委員会としてはこのように残そうと考えているが、皆さんはどう思うか」のように問いかけることが可能と考えている。つまり、事務局としては次のステップに動くための答申と考えている。以前、委員よりクラウドファンディングの活用などで費用を工面することの提案があり、事務局としても事例をいくつか調べた。ただ、こういったものを活用するにしても、前提として「こういった形で D5I を残すので、賛同・協力していただけないか」と示す必要がある。なので、前提として方向性を持っておく必要があり、委員の皆様には「D5I をどれだけ残すべきなのか」「全部撤去すべきなのでは」という極端な方針を決めてもらいたいというわけ

ではないということをご理解いただきたい。

○子供たちにとって、D5I は教育的な価値があったし、これからも残すべきだと思う。もし残す方向で歴史的な面を継承していくというような答申をした場合は、それに沿って進めていくということではよろしいか。

●諮問している限り、ご意見は尊重しないといけないという認識。もちろん、予算面などで、できることやできないこともあるかもしれないが、最大限の努力をさせていただきたい。

○併せて、那覇市民に与儀公園に D5I が設置されていることを広く知ってもらうこと、これについてメディアを活用することもいいことだと思うが。

●おっしゃるとおり、D5I について見直す良いきっかけ・契機になると思う。

○残し方について、D5I があるその場にて、映像等でまとめて見られるといいなと思いついた。歴史が後世に伝えられるのではないか。映像として、言葉として、当時関わった人の言葉や、D5I について詳しい方がいたら当時の言葉として残すのがいいと思う。

○与儀公園の整備について大きな計画があるか。

●与儀公園の整備については、公園建設課という部署が担当しており、5つの区画に区分して整備していくと聞いている。詳細な資料は持ち合わせていないが、見晴らしのよい公園で、遊具にも D5I の意匠を凝らす予定と聞いている。D5I が現在展示されている区域は第 5 工区に指定されており、令和 13 年度頃に整備されると。ただ、県道が拡幅されるための工事が令和 11 年頃から予定されているようで、もし D5I の整備にクレーン車などを入れるのであれば、当該拡幅工事までに行わないと難しいと聞いている。

○一旦、委員からの意見が出そろいましたので、本日配布されている資料の説明を事務局からお願いします。

●説明いたします。前回の第 1 回の会議で、委員の皆様から「できない言い訳を探すより、できる知恵を探してほしい」、「特別な想いを持って見守ってきた人がいる」、「首里城を復興させる力がある沖縄ならできる」という、非常に重要で熱意あふれるご指摘をいただいた。私どもとしては、当初提案した「一部保存」という方向性ではなく、「全体保存（現状の姿での修復）」と

「一部保存（モニュメント化）」の双方について、『できる知恵・残す努力』を追求する、ニュートラルな立場で、今後の検討を進めていきたいと考えている。第 1 回の会議であった提案等を反映した、全体保存と一部保存の2つの選択肢で資料を作成した。（以降、資料の内容を読み上げる。）

○ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明について委員から質問はありますか。前回の会議で出た意見をもとに、全体保存と一部保存に分けた場合の資料の説明でした。

○どういった形で残すか決まらなければ先に進めない、ということであったが、お金をどう確保するかというのも決まらなないと先に進めないと考える。どう残していくかで金額が異なると思うので、お金の集め方についても議論する必要があると感じるが、行政の手続きとしては、D5I をどう残すかが決まったら、その後、どうお金を集めるかという議論に進むという認識でよろしいか。

●おっしゃるとおり。残し方の具体的な方向性が決まらなければ、見積りを取ったり、積算作業に進めないという現状がある。予算の要求にも進めなくなる。

○次回の第 3 回会議に合わせて、事務局には、今回委員の皆さんから出た意見を取りまとめる形で資料を作成してもらいたい。

●今日のご意見の中でのポイントとしては、歴史的な背景を大事にし、当時の人たちの思いを引き継いでいけるようにしないといけない。D5I の完全な撤去ではなく、どうにか残す方向を探ってほしい。この2つのポイントは外せないのかなと考えているので、それを勘案して資料をお示しし、他にも必要な意見がないかというのを次回の会議で決めていければよいのかなと考えます。

～休憩～

○貴重な意見ありがとうございました。本日の会議は以上で終了します。